

2026年4月14日



JR四国・リレーションシップファンド

四国のスイーツ業界で共に成長を目指すため

「J・マルシェ株式会社」を設立

— 共創・共成・共栄を目指したアライアンスの形成を主導 —

日本プライベートエクイティ株式会社

日本プライベートエクイティ株式会社(本社:東京都千代田区。以下、「JPE」)は、今般、四国旅客鉄道株式会社(代表取締役社長:四之宮和幸、本社:香川県高松市。以下、「JR四国」)が全額出資する「JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合(以下、「四国・リレーションシップファンド」)を通じて、J・マルシェ株式会社(以下、「J・マルシェ」)を設立しました。

J・マルシェでは、今後、四国のスイーツ業界(洋菓子、和菓子、銘菓、土産菓子、郷土菓子等)、あるいは、スイーツの素材の生産や流通に関わる周辺業界において、資本の課題を抱えていたり、さらなる成長を目指したいとする中堅・中小企業に対して、投資や株式の承継(譲り受け)等、資本面での連携を進め、緩やかで対等なアライアンス(連携)を構築することを通じて、各社の課題解決や成長戦略を共に実現していくことを目指します。

そして、今般、その具現化として、四国・香川のスイーツ業界を代表する企業2社、「株式会社ちきりや」と「株式会社夢菓房たから」との資本提携を行いました。

■ 株式会社ちきりや (代表取締役社長:千切谷耕一郎、本社:香川県高松市。以下、「ちきりや」)
1948年創業、地域初の洋菓子店として生まれて業歴78年。老舗ベーカリー『春風堂』や洋菓子店『ラ・ファミーユ』をはじめ、『こんぴらプリン』や『道後ぷりん』等の新業態も展開。地元素材を活かした洋菓子をお客様に届けています。

■ 株式会社夢菓房たから (代表取締役社長:濱田浩二、本社:香川県高松市。以下、「たから」)
1936年『たからまんぢう』を創業、業歴90年の老舗和菓子屋さん。看板商品の『いちご大福』をはじめ、素材や製法にこだわった和菓子をお客様に届け、長く親しまれ、愛されています。

1. 本件概要

日本のスイーツ業界の中小企業の多くが、全国各地でその地域に根づき、地元で親しまれながら業歴を重ねるなか、その歴史を重ねるほどに、後継者不在や設備老朽化、人材不足、人件費・物流費のコスト上昇といった、様々な経営課題が積み上がっているという、深刻な現状があります。

四国も、もちろん例外ではなく、スイーツ業界に携わる中小企業や事業者が各地に存在しています。そうしたなか、J・マルシェは、一社一社単体では解決が難しい経営課題でも、互いに補い合い、課題や問題意識、経営資源、ネットワークを共有することを通じて、共に解決と成長を目指すことで、今までにはない形での事業展開が可能となり、互いにさらなる発展が目指せるものと考えています。

J・マルシェは、“共創・共成・共栄”という理念の下で、“資本”という強いつながりを持ちながら、緩やかで対等なアライアンス(連携)を構築することで、四国のスイーツ業界の中小企業が抱える共通の経営課題を解決すると同時に、各社の自立を尊重しながら“守り、残し、伸ばす”ことで、各社の持続的な成長、さらには、業界や地域の発展を後押しします。

四国のスイーツ業界において、J・マルシェが描く構想を具現化するため、この度、香川県で業界を代表する老舗企業2社、洋菓子店「株式会社ちきりや」と老舗和菓子屋「株式会社夢菓房たから」との資本提携を行いました。

ちきりやは、昭和23年(1948年)に高松丸亀町で創業、業歴78年を超え、現在も、地元老舗のベーカリーショップ『春風堂』や洋菓子店『ラ・ファミーユ』といった地域で永く愛されるお店をはじめ、『こんぴらプリン』や『道後ぶりん』、『うふいちご』といったユニークな業態やブランドの開発、EC販売も積極的に展開、地元の素材を活かした洋菓子を全国のお客様に届けています。

たからは、昭和11年(1936年)に高松市東山崎町にて『たからまんぢう』として創業、自家製館や四季折々のフルーツなど素材や製法にこだわり、看板商品である『いちご大福』をはじめ、“本当に美味しいお菓子をお客様に提供したい”という心とともに、様々なお菓子を多くのお客様に届け、地域で長く親しまれ愛されている和菓子屋さんです。

こうして、地元で長い歴史をもち、親しまれ愛されながら、洋菓子や和菓子といった地域のスイーツ業界を牽引してきた2社は、それぞれ独立した企業として、今後ものれんやブランドを守り、その社風や人材も守り続けながら、四国はもちろん、全国や海外のお客様へと、それぞれの価値を提供する会社として成長し続けることを目指します。

2. J・マルシェ構想の意義・背景

和菓子や洋菓子など、日本各地の“お菓子屋さん”の多くが、創業者から2代目、3代目とバトンをつないで今に至るといふ、地元根付いた長い歴史をもちながら、地元のみならず、地域を訪れる人たちにも様々な価値を提供し、地域においてなくてはならない存在ともなっています。しかしながら、“家業”であり続けるがゆえに、事業承継をはじめとした、様々な課題に直面し、その存続が難しくなっているという現実もあります。

J・マルシェは、こうした課題に対して、資本面での解決策を提供することで、事業承継問題の解決はもちろん、地域に残り、存続し、成長を続けることができる企業へと変わっていくことを支援する役割を担います。

ファンドという、色のついていない、中立的な“資本”を活用した継承により、一社一社の存続と発展だけではなく、各社の交流や補完を促し、互いに切磋琢磨して成長するという、地域ならではの“継承”と“発展”が叶うものと考えます。けっして規模は大きくならずとも、“家業”から“小さな企業”へと進化し、雇用の維持・拡大、経営人材の育成など、組織経営の確立に向けて一つひとつ課題を解決していくことが、四国のスイーツ業界のみならず、全国各地・各業界の中小企業にとっても必要であり、新しい形での存続・成長モデルになると考えます。

J・マルシェは、JR四国が全額出資する「JR四国・リレーションシップファンド」の100%出資会社であり、資本提携により、J・マルシェのアライアンスに参画した各社は、信用力がより高まり、事業面・人材面・資金面においても事業展開が円滑に進むことが期待されるほか、J・マルシェが“窓口”や“調整役”、“旗振り役”となり、JR四国グループとのアライアンスを通じた、事業上の相乗効果にもつなげていきます。

3. 資本提携の先に目指すところ

(1) 自立を尊重し、緩やかに繋がり、共に成長する

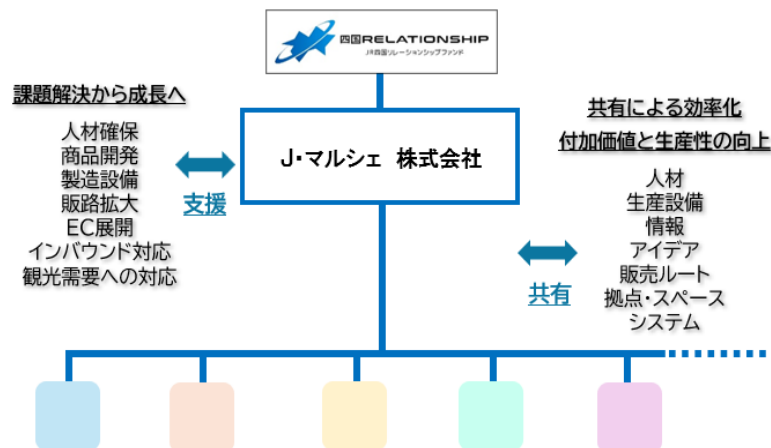
日本全国では安定成長を続けるスイーツ業界ですが、地方の中小企業や小規模事業者は、各地域での人口減少や大手との競争という大きな流れには抗えず、各社は、インバウンドをはじめとする観光客向けの土産菓子への参入や、より美味しいものや新しいものを欲する全国の消費者へのEC販売といった販路の拡大に求めています。

よって、J・マルシェでも、引き続き、洋菓子・和菓子・銘菓・土産菓子・郷土菓子といった、スイーツ業界やその素材の生産や流通に関わる周辺業界の中堅・中小企業を対象として、グループとして互いに連携や相乗効果が見込まれる企業に、J・マルシェを通じて投資や株式の承継(譲り受け)による資本提携を進めます。その結果、“資本”という強いつながりの下でのアライアンス(連携)により、自社だけでは実行できない施策や今の延長線上ではない新しい挑戦や成長戦略にも取り組むことができるものと考えます。

(2) 四国発 資本でつながる“アライアンス”を構築する

J・マルシェのアライアンスに参画する各社は、一社一社が独立した企業として存続し、各社のブランドや社風、雇用を堅持し、各社の自立を尊重するという前提の下で、緩やかなアライアンス(連携)を形成することを企図しています。

ゆえに、J・マルシェは、アライアンスに参画する各社が、互いの得意分野や経営資源を活かしながら、また、経営課題や問題意識も共有して、補い合い、解決し、共に成長するための“旗振り役”となります。例えば、新規出店や人材確保や商品開発、インバウンド対応、販路拡大、業態開発など、自社だけでは対応が難しい課題や実行に移せないでいる施策に“ヨコ串”をさす“窓口”や“調整役”ともなります。あるいは、売り場(リアル・EC)や生産設備、知恵・情報・アイデア、人材(工場・店舗)、物流・保管(冷蔵・冷凍)といった観点で“共有するなど、アライアンスにより、集まってこそできる施策を互いに共有して実現し、四国を起点として共に発展することを目指します。



(3) J・マルシェを通じたアライアンスで目指す姿

スイーツ業界に限らず、地域の中企業が抱える課題は、一朝一夕に解決できるものではなく、10年、20年先を見据えて取り組む必要があります。

そうしたなか、J・マルシェは、アライアンスに参画した企業の成長支援だけでなく、各社の経理や財務、人事労務等の管理体制等、オーナー経営から脱却し、小さくとも“組織経営”ができる体制を構築すべく、企業の“経営”の一部を請け負うという役割を担うことも想定しています。

例えば、経営という観点では、各社が必要とする「経営計画の策定・実行」や「出店・M&Aによる成長戦略」、「財務・労務・人事管理等の組織としての社内体制整備」などによる、企業価値の向上を実現します。また、現場や実務目線では、「店舗とスタッフの統括・管理」、「店舗業務の効率化と推進」、「人材採用・育成・教育」、「顧客満足・サービス向上」など、現場の日々の業務の推進や負担軽減を図り、組織経営への移行を支援します。

こうしたなかで、各社の社内外での人材交流の拡大を図ることで、現場経験の豊富なプロパー人材の“経営人材”としての育成や登用なども可能になると考えており、地域や業界における、新しい経営モデルの確立を目指します。

以上、「四国リレーションシップファンド」は、JR四国が全額出資し、四国4県の企業を中心に、「事業の承継と成長を両立させたい中堅・中小企業」や「JR四国との連携や四国経済・社会・文化の発展に資する事業を展開する中堅・中小企業」に出資をする“プライベートエクイティ・ファンド”です。

ファンドを通じた出資により、地元に残し、共に成長することで、地域・業界・人材の活性化を促し、“成長の好循環”を地元で創出、共存共栄による“地域的意義”を果たすことを目指しています。

JPEでは、今後も、「四国リレーションシップファンド」の運営、また、J・マルシェによる資本のアライアンスの拡大を通じて、四国の優良な中堅・中小企業の資本と経営を承継し、各社の課題解決や成長戦略の実現を支援します。

□ JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合 <https://jr-shikoku-fund.jp/>

組合名称	JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合
設立	2023年10月3日
ファンド規模	20億円
投資対象	四国地域の発展に資する全国の中堅・中小企業、スタートアップ企業、新たに設立される会社
出資者	四国旅客鉄道株式会社
運営者	日本プライベートエクイティ株式会社

<本件に関するお問い合わせ先>

日本プライベートエクイティ株式会社 <https://www.private-equity.co.jp/>

東京都千代田区神田三崎町二丁目15番6号 K-STAGE 5F

Tel:03-3238-1726 Fax:03-3238-1639

担当：東京本社 企画部 (info@private-equity.co.jp)

四国オフィス 遠藤

以上

＜会社概要＞

*2026年3月31日現在。五十音順(出資者除く)



□ J・マルシェ株式会社

本社所在地	東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
代表者	代表取締役社長 法田 真一
事業内容	スイーツ(洋菓子・和菓子・銘菓・土産菓子・郷土菓子等)及び周辺業界の中小・小規模企業への投資、経営統括、コンサルティング

□ 株式会社ちきりや <https://chikiriya.jp/>

本社所在地	香川県高松市丸亀町 4-7
設立	2009年3月17日(創業:1948年)
代表者	代表取締役社長 千切谷 耕一郎
資本金	1,000万円
従業員数	119名(2026年3月現在、パートを含む)
事業内容	ベーカリー店「春風堂」、洋菓子店「ラ・ファミーユ」、本格派手作りプリン専門店「こんぴらプリン」、「道後ぷりん」等を運営

□ 株式会社夢菓房たから <https://e-takara.jp/>

本社所在地	香川県高松市春日町 214 番地
設立	1985年3月6日(創業:1936年)
代表者	代表取締役 濱田 浩二
資本金	1,000万円
従業員数	82名(2025年12月現在、パートを含む)
事業内容	「いちご大福」をはじめ 40 種類を超えるフルーツ大福などの和洋菓子を製造小売、本店及びオルネ店を運営

□ 四国旅客鉄道株式会社 <https://www.jr-shikoku.co.jp/>

会社名	四国旅客鉄道株式会社
所在地	香川県高松市浜ノ町 8 番 33 号
設立	1987年4月1日
資本金	35億円
代表者	代表取締役社長 四之宮 和幸
従業員数	2,010名(2025年4月現在)
事業内容	旅客鉄道事業、旅行業、その他関連事業

□ 日本プライベートエクイティ株式会社（JPE） <https://www.private-equity.co.jp/>

所在地	東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
設立	2000 年 10 月
資本金	6,000 万円
代表者	代表取締役社長 法田 真一
事業内容	中堅・中小企業、小規模企業の事業承継や事業再編を対象とした ファンドの運営、コンサルティング

四国へ 人を繋ぎ

四国に 人が集い

四国で 人が笑う

四国・リレーションシップファンドは、みんなで“新しい四国”を創ります



四国RELATIONSHIP
JR四国リレーションシップファンド